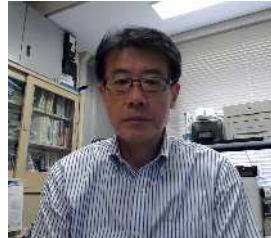


大学との意見交換会

- 1 開催日(ウェブ開催)：2020年9月10日(木) 18時～19時30分
- 2 参加者：森川先生、織田澤先生、伊藤会長、山下広報幹事、能沢(記録)

伊藤：現在の大学の状況を教えてください。

森川先生



伊藤会長



森川：現状で、新型コロナに対して本学活動制限指針のレベル2(4、5月はレベル4、6月はレベル3、7月からレベル2)で対応している。工学研究科では8月に入って複数名の感染者が出た。大学院入試が控えていたためクラスター発生防止

対策を講じることとなり、人数に限らず食事会・飲み会は自粛要請された。

感染症専門家の意見を監督要領に盛り込んで試験対応し、院試は無事に対面式で実施できた。本年度後半の入試にも繋がる試験対応ができたと考えている。

森川：一昨日、大学本部から、10月1日よりレベル2からレベル1に緩和されることが発表された。通常の講義が、教室定員の50%以下の制限付きで認められることとなる。今のところ、創造思考ゼミナールⅠ、Ⅱや土木CAD製図、数値計算実習、大学院講義の一部が対面授業で実施予定であり、その他、いくつかの講義科目についても現在、対面授業化の検討を進めている。学生実験など一部の科目では録画映像による授業も実施している。オンラインによる実験授業はリアリティが不足しているため、希望者には、実験見学会を開催予定である。

森川：レベル2の7月において、1年生は少人数で班分けしてできる創造思考ゼミナールⅠを対面式で実施し、大学に来る機会をつくった。大学の食堂に感激する初々しい姿がみられた。2、3年生については前期は全てweb授業で講義した。

伊藤：学生は、現在のオンラインの講義をどう思っていますか？

森川：1年生の7割が対面講義を希望しているが、2年生以上は3割程度に止まっている。1年生は、大学に行って早く同級生とのコミュニケーションをとりたいという思いがあるが、2年生以上はwebの方が単位を取りやすいと思っているからかもしれない(笑)。一方で、実験・実習の授業はwebでは分かりづらいとの意見も出ている。

森川：今後も対面式を増やしていきたいが、大学としてはクラスター発生を一番恐れている。そのため、神戸大学保健管理センターの指導に基づき、クラスター発生防止対策をとっている。

伊藤：大学の対応の厳しさに驚きます。兵庫県の小中学校では感染者が出たら2日間休校、高校では濃厚接触者のみ休みとしているのが一般的。

森川：大学は小中高と異なり、科目ごとに教室を移動しながら授業を受けるため、接触者が広範囲となり、厳しい対応をとらざるを得ない。今後は、対面式とwebを使いわけながら講義していくが、オンライン授業におけるアクセスポイント(教室)の不足や食堂の定員不足も課題である。

森川：レベル2であれば、4年生や院生の研究は8名/100m²以下であれば許可されている。森川研究室では、学生部屋に全員集まることができず、ネット上でスケジュール表を管理

し、研究室への入室者を調整している。実験は、感染予防対策を講じながら、ほぼ計画通りに実施できている。

伊藤：学生の生活はどうですか？

森川：実家に帰省したり、アルバイトも出来始めているので、なんとかやりくりしている。

伊藤：退学者は出ていませんか？

森川：退学の前段階として休学届が出るものと考えているが、例年と比較して増えている状況ではない。退学者は今のところ出ていない。

織田澤：よい事例としては、学生結婚・出産して休学中の学生が、オンライン授業であれば出席できるので、復学したことがあった。

伊藤：全国的に退学予備軍が3割程度いるといわれています。学生目線が必要ですね。

伊藤：コロナで逆に良いことはなかったですか？例えば、国内外で普段会えない方の講義を聴講できたり、他大学との交流などはありませんか？

織田澤：MaaSの著名人にオンライン講義を依頼している例はある。

織田澤先生

森川：大多数の教員はオンライン講義はやりたくないのが本音。通信容量の関係で受講生が多数の授業では学生はカメラ off にする必要もあり、パソコン画面に向かって講義することに虚しさを感じ、教育効果も十分ではない。

伊藤：指定感染症として「2類相当」から「5類」への見直しがないと、抜本的な解決にはならないのかもしれない。



伊藤：暁木会からの支援は充分ですか？

織田澤：支援金でスペックの古いパソコン4台を買い替えた。

伊藤：暁木会の会員も増えているので、遠慮なく学生のために使ってほしい。

織田澤：携帯会社が通信制限を無くすサービスを終了すると、WiFiのルーター貸出の需要が増える可能性がある。今後も学生ニーズを聞きながら対応していく。

伊藤：就職については問題ないですか？

森川：新型コロナウイルスによる土木業界への影響があまりなく、今年度の就職に大きな影響はない。大方の学生は民間企業の内定を取ったり、公務員試験に合格している。国交省の総合職にも合格者が出た。土木の就職状況はよいが、他学科では院試の受験者数が大幅に増加したようである。業界の差も大きいと思われる。

来年度以降については、企業説明会、現場見学会等への影響もあり、学生への情報不足が懸念されるが、人数を絞りながら現場見学会を開催する大手ゼネコンも出始めている。就職面でも暁木会の支援をお願いする。

伊藤：承知しました。今後も卒業生が一丸となって大学を支援していきます。引き続き何でもおっしゃって下さい。厳しい状況が続きますが頑張ってください。

山下広報幹事



能沢広報幹事

